

はくぶつかんネット 第84号



戦後 80 年企画展Ⅱ

宜野湾 戦後生活史

無事終了
いたしました!



令和7年11月～令和8年3月号
発行：宜野湾市立博物館

日差しが暖かく、春の訪れを感じられるようになりました。年度末は変化も多く慌ただしい時期ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？昨年は戦後80年を迎えたことから、当館では二度の関連企画展を開催しました。6月の第一弾「沖縄戦中の宜野湾 ～戦後80年をむかえて～」に続き、第二弾として「宜野湾戦後生活史」と題し、^{せいさん}凄惨な沖縄戦を生き抜き、戦後ゼロからスタートした人びとが経験した米軍占領下や、日本復帰に伴うさまざまな出来事、それらを経て移り変わっていった宜野湾の様子を紹介しました。戦後初期の項では、規格住宅（キカクヤ）の建築過程を5段階で表した模型や、民間収容所などで食した米軍の野戦食（レーション）の模型、また、衛生管理と肥料増産のために設置を推奨していた「三槽式構造の便所」の1/2模型などを展示して、終戦直後の生活を分かりやすく紹介しました。米軍占領下の米軍基地と島ぐるみ運動、日本復帰後の通貨交換や730（交通方法変更）などについても、さまざまな資料と併せて紹介しました。



三槽式構造の便所



戦後直後の道具類



730資料

ご来館いただいた皆さまからは「貴重な資料がよく残っていたと感心すると同時に、平和の貴さを実感した。」「実物と共に当時の様子が分かってよかった。」「資料が多く、見ごたえのある展示だった。戦中一戦後の宜野湾の社会の変遷がわかりやすく勉強になった。」「なつかしい物にふれて、色々と考えさせられる機会になった。」「三槽式構造便所が実際にまたげるようになって面白かった。」など多くの感想をいただきました。11月1日(土)から1月18日(日)までの開催期間(61日)で、市内外や県外から3,089名のご来場がありました。たくさんの方々にご来館いただきまして、誠にありがとうございました！！



見学の様子



三槽式便所に挑戦!

地域との共同企画展

ぎのわんの“^{あざ}字”展

～じのーんどうむら～

開催中!



開催期間：1月30日(土)～3月29日(日)

平成19年度の「入門編」に始まった字展も、令和5・6年度の「屋取集落編」で全字の紹介が終了しました。18回目の開催となる今回の字展では、二巡目のトップバッターとして、琉球王国時代から戦前にかけて宜野湾の中心地であった“じのーんどうむら”、すなわち字宜野湾に焦点を当て、字宜野湾の自治会、郷友会の協力のもと、字宜野湾の歴史や暮らし、文化財などの特色を紹介しています!



「じのーんどうむら」とは、漢字で書くと「宜野湾同村」つまり、^{まぎり}間切（現在の市町村に相当）と同名の村（ムラ）のことじゃよ! 宜野湾市は琉球王国時代に14の集落から成る「宜野湾間切」としてできた地域なんじゃが、字宜野湾は当時、^{まぎりばんしょ}間切番所（現在でいう役所）が置かれ、行政の中心地として栄えたことからそう呼ばれるようになったのじゃ!

◆ ご協力に感謝 ◆

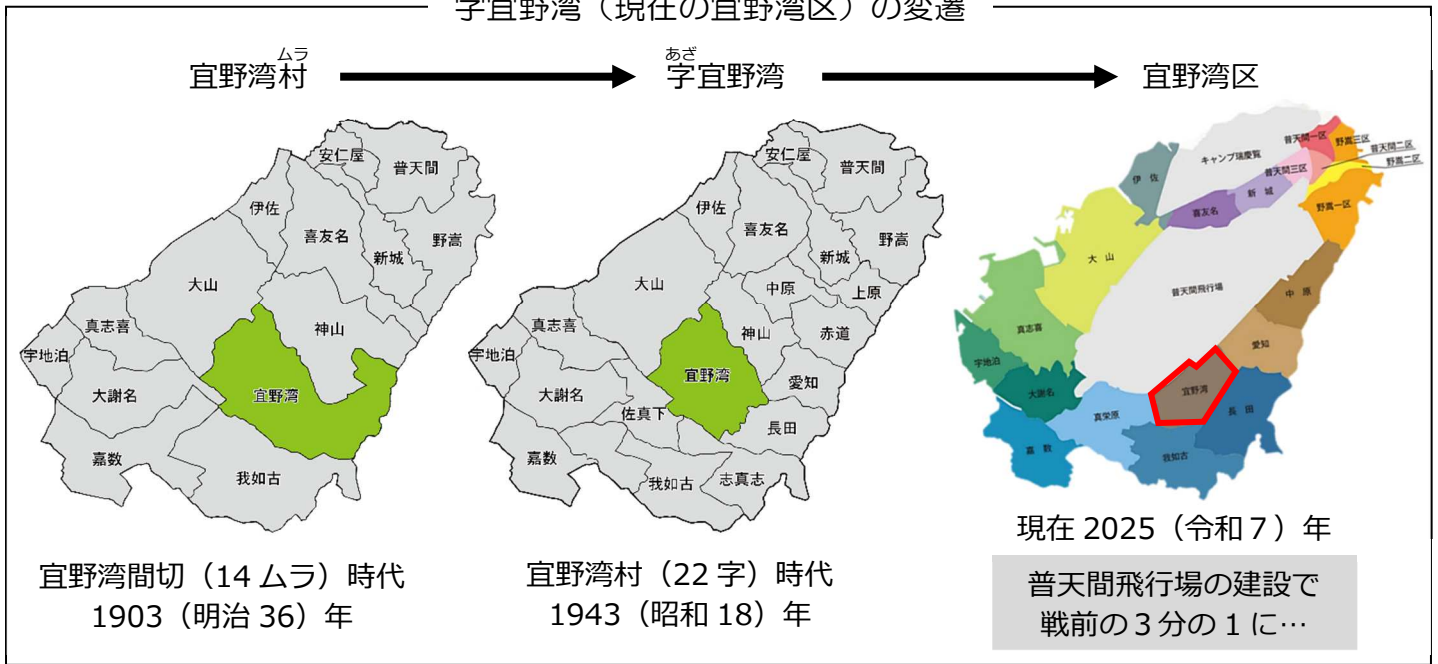
今回の展示にあたり、ワラビジナ（童綱）や子ども会の旗頭の搬入、エイサー衣装の着付けなど、宜野湾区自治会・字宜野湾郷友会に多大なご協力を賜りました! おかげ様で、無事企画展をオープンすることができ、観覧者の皆様にもご好評いただいています! 本当にありがとうございました!



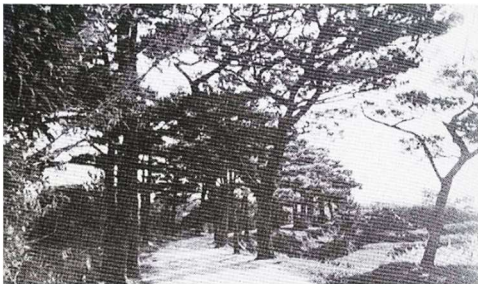
今回の展示の目玉は、2024(令和6)年に復活した「ワラビジナ(童綱)」だケロ! 宜野湾区から実物の綱をお借りして展示しているケロ♪ぜひその大きさを体感して欲しいケロ☆彡



字宜野湾（現在の宜野湾区）の変遷



戦前の字宜野湾には、リュウキュウマツの並木道＝ジノーンナンマチ（宜野湾並松）が通り、その街道に沿ってジノーンンマイ（宜野湾馬場）がありました。また、村役場・小学校・郵便局などの公共施設が集中し、東西南北への道が交差する交通の要所でもあったことから、マチグワー（市場）が発達し、政治・経済・文化の中心地でした。



ジノーンナンマチ（宜野湾並松）



ジノーンンマイ（宜野湾馬場）
東京大学総合研究博物館 所蔵



宜野湾村役場
1935 (昭和 10) 年頃

ところが、沖縄戦中から始まった普天間飛行場建設で集落の3分の2が接收され、美しい松並木も、賑やかなマチグワーも、住み慣れた家も敷きならされ、故郷の面影はなくなってしまいます。そんな中でも、住民の方々は前を向き、一丸となってゼロから復興に取り組み、宜野湾区として再生を果たしました。



沖縄県公文書館 所蔵

本展示会では、そんな激動の歴史を歩んだ字宜野湾の、貴重な資料を多数展示しています！ぜひご覧ください♪



普天間飛行場建設
1945 (昭和 20) 年 6月

【関連事業】市民講座「語やびら、イガルーシマ～じのーんどうむら～」を開催しました！

3月1日（日）、字宜野湾ご出身の宮城幸盛さん・玉那覇昇さんのお二人を講師にお招きして、字宜野湾の戦前・戦後の様子についてお話しを伺いました ✨

戦前のナンマチ・ンマイ・マチグワーの様子や、戦時中のガマの様子、そして戦後ゼロからの復興など、とても貴重なお話を聞かせていただきました ♪



市史だより
がちまやあ
Gači-majaa
 生活習慣の変化

今年度の「がちまやあ」は、宜野湾の終戦直後から 1980 年代までの変化についてお送りしています。今回の第 3 回は「生活習慣の変化」を見ていきます。「生活習慣」は、食事、運動、睡眠、衛生、嗜好品（しこうひん）の摂取（せっしゅ）など、毎日の基本的な生活行動の中で、長い間繰り返し行われるうちに、そうすることが定着して形成された行動パターンをいいますが、

生活習慣のありようは国や地域、宗教や文化などによっても異なるため、その背景とともに捉えることが重要とされています。

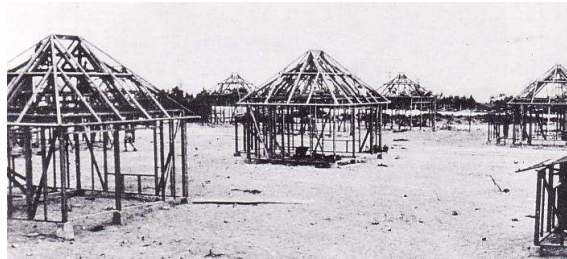
こうした「生活習慣の変化」について、宗教や文化的な方面も含めたトピックを取り上げ、変化を見ていきたいと思います。

規格家〈キカクヤー〉

戦後の復興住宅として、1945 (昭和 20) 年 8 月から 3 年間に、7 万 5000 棟 (むね) が建てられました。米国産材木を使用したツー・バイ・フォー (2×4 インチ) の骨組みで、壁と屋根はテント張りか茅葺き (かやぶき) で、画一的な規格のため「規格家」と呼ばれました。

この規格家の面積は 7 坪 (23.17 m²) に満たない小さなものでしたが、住宅不足の解消に一定の役割を果たしました。

その後、沖縄の住宅は台風にも耐えられるコンクリート造りが主流となり、現在は建築技術の向上により、木造の家も増えてきています。



◀ 同じ規格の住宅が点々と建てられています。
 Kikakuyaa (規格家)
 アメリカ国防総省の写真 (1946 年)



今の感覚では同じ規格の家が並ぶのは珍しいが...

◀ 建設中の規格家 (沖縄県公文書館所蔵)

1945

1950 年代

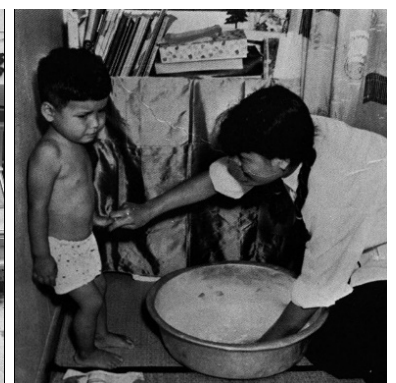
1951 (昭和 26) 年：普天間地域に電話開通

1945 (昭和 20) 年、米軍は広報活動を開始し、掲示板とともに電話機も設置しました。1951 年に普天間地域に電話が開通し、その後、順次電話が普及していきました。

「公衆電話」も設置・使用されましたが、やがてポケベル、携帯電話、スマートフォンが飛躍的に普及し、人々のコミュニケーションの様態 (ようたい) は大きく変化していきました。



▲ 公衆電話の電話ボックス



▲ 大きなたらいにお湯を入れ、体を拭いたり洗ったりしていました。※

1959 (昭和 34) 年：この頃から「家族風呂」が普及

住宅に入浴設備が作られるようになる以前は、井戸の水で水浴びや、※の写真のようにたらいを使って体を洗うこともされていましたが、やがて銭湯で入浴することもできるようになり、1969 (昭和 44) 年の『宜野湾市商工名鑑』では 16 件の浴場が確認できます。その後、住宅内の入浴設備が普及していきます。

たらいのお風呂は、今ではやらないよね...



▲ 住宅内に作られた風呂 (撮影は 1982 年)

上下水道がスタート

生活水の確保は、古くは「村ガ－」（共同湧泉）が盛んに使用されていましたが、明治末期頃から屋敷内に井戸を掘ることが活発になり、多くの家庭で個人井戸を持つようになりました。井戸は戦後まで使用が続いていましたが、宜野湾では1960（昭和35）年に上水道がスタートしました（下水道事業の着手は1971〔昭和46〕年）。水の確保に苦勞してきた沖縄で、重労働であった「水汲み」から解放されたのは画期的なことだったと言えるでしょう。

それ以降も、自治会が管理して洗車や庭の水まきに使用したり、黙認耕作地への取水に使われるなど、村ガ－は大事な水源でした。



▲大山の村ガ－「アラナキガ－」での洗濯の様子



▲小学生が水道施設を見学（年代不明）

トートーメー継承訴訟

祖先の霊を祭る位牌（いはい）を「トートーメー」といいます。慣習ではトートーメーの継承と財産の継承は一体となっており、女性は継承できませんでした。

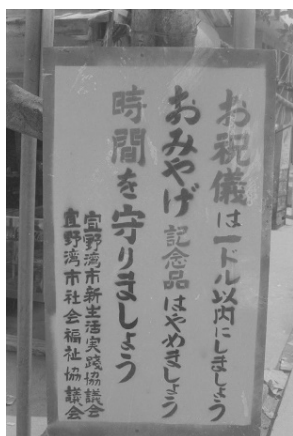
1980（昭和55）年、那覇市内で墓地移転に伴う祭祀相続で親せき間に争いが起こり、トートーメーと財産の相続から外されるとした直系の女性が那覇家庭裁判所に訴えました。翌1981（昭和56）年、同裁判所は、「慣習は男女平等を定めた憲法や民法に違反する」として女性の訴えを認める審判を下しました。

現在では、トートーメーの継承は、状況を踏まえて柔軟に対応する例も多くみられ、人々の考え方が変化してきた様子がうかがわれます。

1960

1966

1981



◀新生活運動1969（昭和44）年。生活改良運動の一環で、この看板からは冠婚葬祭の簡素・合理化の推進が見て取れます。

生活改善運動

農業改良普及事業の一環として行われた農・漁村の生活向上を目的とした運動を「生活改善運動」と呼んでいます。生活環境の改善と健康づくりを基本的なテーマとし、身近な生活の問題を取りあげ、解決していくことを目的としました。具体的な活動目標は時代を反映して変化しています。

SDGs(持続可能な開発目標)の1つに「ジェンダー平等」があるわね。



▲トートーメー位牌。故人の名前や戒名を木牌に金文字で記入する。

「1966年度生活改良普及計画書 中部地区農業改良普及書 宜野湾支所」という文書では、1966年度重点目標として、「1、生活に合った衣生活の習慣をつける。2、家族の健康維持に必要な栄養を考えた食事をするようになる。3、台所の重要性を認識し、その改善につとめる。4、子どもの成長に応じた生活習慣を身につける。5、無駄な現金支出をなくし、堅実な家庭運営の習慣を身につける。」とあります。これらは当時の「目標」ではありますが、まさに、生活を向上させるための項目であり、現在の我々の生活においても意識される事柄です。これらは生活に即した合理的な価値観を広める動きともなりました。



▲「1966年度生活改良普及計画書 中部地区農業改良普及書 宜野湾支所」

第26期 わらば～体験じゅく

新しい友だちたくさんできたかな？



昨年の6月から始まり、今年の2月に終了した「わらば～体験じゅく」の活動を振り返ります。

市内の小学5・6年生を対象に24名の児童が、宜野湾市の歴史や文化を中心に、様々な体験をとおして学びました。また、今期は「ボランティアスタッフ」として、市内中学校の生徒1名も参加しました★

第1回
6/14

開校式/
博物館見学と昔の道具体験
講師：博物館職員



これから約1年間、一緒に体験する仲間たちとの初顔合わせ☆どんな事が起こるのか、緊張もあるけど楽しみだ～!

第2回
7/19

ウシのお世話を
してみよう!
講師：宮城 邦治さん



その昔、宜野湾市でも行われていた「闘牛」。そのウシ達と、牛舎の掃除やご飯あげ、ブラッシング等でふれ合いました★

第3回
8/16

宜野湾の海と
サンゴを知ろう☆
講師：佐藤 太一さん
(宜野湾マリン支援センター長)



宜野湾の海の中をVRで見えたり、シュノーケリング体験やサンゴを使ってフォトフレームを作りました☆

第4回
9/20

喜友名のシーサーめぐり
講師：博物館職員



喜友名地区で、文化財の「喜友名泉(国指定)」と「喜友名の石獅子群(市指定)」を、ウォークラリー形式で歩き回りました♪

第5回
10/25

大山の自然観察
講師：千木良 芳範さん
(宜野湾市立博物館 前館長)



宜野湾市の特産物は「田イモ」です☆大山に広がる田イモ畑で、動植物や湧き水を発見っ!たくさん歩いたなあ(*´3`)ワ

第6回
11/15

私たちの足もとは何がある?
講師：新山 颯大さん
(沖縄県立博物館・美術館 学芸員)



私たちの住んでいる足下には何があるのか、琉球石灰岩の砂を顕微鏡でのぞいて見ると、新たな発見がありました★

第7回
12/20

漆の技法体験
講師：工芸士(琉球漆器)のみなさん



沖縄の伝統工芸である「琉球漆器」について職人さんから学び、実際に技(沈金技法)を体験しました☆

第8回
1/17

山芋スープ
講師：宮城 邦治さん



宜野湾市を離れ(うるま市)、田イモではなく「山芋」の収穫を体験!重さや形の綺麗さを勝負しつつ、土壌の違いによって育つ作物が違うことを学びました♪

第9回
2/21

葉脈スタンプカードづくり
/閉校式
講師：博物館職員



木の葉の葉脈を模様にして、葉脈スタンプカードを作成した後、閉校式を行いました★みんな「じの～ん通」になれたかな?

第27期
じゅく生
募集!



4月に市内在住の5・6年生になる皆さんの中で、興味のある方は、博物館から配布される申込用紙をぜひ持って来てね♪一緒に宜野湾市の歴史や文化について、楽しく学ぼう!

博物館市民講座を振り返って

令和7年度の市民講座は、室内講座12回、野外講座6回の合計18回の講座を無事終了し、どの講座も大変ご好評をいただきました。オンライン参加も含めて累計で452名もの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました！

- ◆第1回 6/28・29「リュウキュウツミの観察会」
飯沼 慶一(学習院大学 教授)
宮城 邦治(沖縄国際大学 名誉教授)



ロビー展「リュウキュウツミの成長」に関連して、伊佐第二児童公園にてリュウキュウツミの生態観察を行いました。

- ◆第2回 6/15「対馬丸の悲劇」
平良 次子(対馬丸記念館 館長)



太平洋戦争で撃沈した疎開船「対馬丸」について、母啓子さんの体験談や、今後の継承の取り組みについてお話いただきました。

- ◆第3回 7/27「森川散歩」
千木良 芳範(元宜野湾市立博物館 館長)



あいにくの雨天でしたが、室内で森川公園の動植物について解説いただいた後に、森川公園で散歩しながら観察会をしました。

- ◆第4回 8/3「野嵩スティバナピラの調査成果」
伊藤 圭(市文化課 文化財保護担当主査)



県指定史跡に登録された「野嵩スティバナピラ石畳道」について、発掘調査から得られた成果と保護活動について解説していただきました。

- ◆第5回 8/10「作る、使う、直すこと」
島袋 正敏(元名護博物館 館長)



企画展「シマで生きる道具展」の関連事業として、昔から伝わる民具について、企画展の解説を交えながらお話いただきました。

- ◆第6回 8/17「ヤンバル竹でホーキ作り」
仲間 あずみ 他(島で生きるチカラ調査隊)



企画展「シマで生きる道具展」の関連事業として、ヤンバル竹でホーキを作りました。体験を通してモノ作りの考え方や工夫を学びました。

- ◆第7回 8/31「一斗缶でターグー作り」
仲間 あずみ 他(島で生きるチカラ調査隊)



企画展「シマで生きる道具展」の関連事業として、一斗缶でターグー(水汲み)を作りました。作った道具を担いだり、使い方も体験しました。

- ◆第8回 9/28「外来由来の呪物」
高江洲 敦子(沖縄国際大学 非常勤講師)



現在は沖縄にすっかり定着している外来由来の呪物(石敢當やヒンブン、獅子像)などについて、解説していただきました。

- ◆第9回 R8.3/8「御嶽めぐり」
平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)



市内に残る、最も重要な聖地である「御嶽」と、別の場所にまとめて祀られた「合祀拜所」などを、バスで巡りました。

- ◆第10回 11/8「宜野湾教育のあゆみ」
藤波 潔(沖縄国際大学 教授)



企画展「宜野湾 戦後生活史」の関連事業として、近代から現在に至るまでの、宜野湾の教育の流れと出来事を解説していただきました。

- ◆第11回 11/9「ぶらっと、博物館めぐり」
宮里 実雄(石川歴史民俗資料館 学芸員)



企画展「宜野湾 戦後生活史」の関連事業として、戦後、大規模な収容所があった石川にて、沖縄の戦後を解説していただきました。

- ◆第12回 11/30「ドウジンを作ってみよう」
齊藤 郁子(宜野湾市立博物館 職員)



琉球王国時代の上半身下着(礼装用)「ドウジン(桐衣)」作り体験を通して、王国時代文化への理解を深めました。

- ◆第13回 12/7「戦後のはじまりは野嵩から」
平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)



企画展「宜野湾 戦後生活史」の関連事業として、宜野湾に設置された野嵩収容所跡などの周辺施設跡をめぐるながら、解説を受けました。

- ◆第14回 12/14「戦後沖縄社会とくらし」
秋山 道宏(沖縄国際大学 准教授)



企画展「宜野湾 戦後生活史」の関連事業として、戦後沖縄社会のあゆみ、人々のくらしの変化などについて、解説していただきました。

- ◆第15回 1/18「近代沖縄の幕開け」
前田 勇樹(琉球大学附属図書館 職員)



琉球処分から沖縄戦までの沖縄や宜野湾の出来事や、当時の状況など、様々な視点から解説していただきました。

- ◆第16回 2/15「みぐてい!イガルシマじのーんどうむら」
平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 館長)



地域との共同企画展「ぎのわんの字展〜じのーんどうむら〜」の関連事業として、字宜野湾の街並みに残る、戦前・戦後のこ跡をめぐりながら紹介しました。

- ◆第17回 2/22「発掘!ぎのわん史」
長濱 健起(宜野湾市立博物館 係長)



発掘調査とは?遺跡とは?など、発掘調査の概要にはじまり、市内に残る時代ごとの代表的な遺跡から、当時の宜野湾の様子を解説しました。

- ◆第18回 3/1「語やびら、イガルシマじのーんどうむら」
宮城 幸盛、玉那覇 昇(字宜野湾郷友会)



地域との共同企画展「ぎのわんの字展〜じのーんどうむら〜」の関連事業として、字宜野湾の戦前・戦後の様子や、行われていた行事などを、お話していただきました。

社会科見学・出前講座

今年度もたくさんのご利用
ありがとうございました！

社会科見学

今年度も市内外の小中学校などから社会科見学に21校（2,062名）の児童・生徒が来館しました。見学では、昔のくらしや沖縄戦中の宜野湾の様子などを、博物館職員の解説や昔の道具の体験などから学びました。



社会科見学の様子

出前講座

宜野湾市内の学校を対象に博物館職員が出向いて行う出前講座は6校（725名）に行いました。内容は先生方の要望に合わせて、「昔の道具とくらし」「宜野湾市のうつりかわり」をはじめ、「学校周辺に残る文化財」などを行いました。



出前講座の様子

今年度も社会科見学と出前講座で市内すべての小学校に博物館を利用してもらったよ！
みんな、ありがとう！



解説付きの見学や出前講座は、事前に打ち合わせが必要となりますので、約1カ月前までにはお問合せ下さいませよう、よろしくお願いします。

令和7年度の博物館活動を振り返って

令和7年度の博物館事業と市史編集事業が無事に終わりました。この度は、当館主催の企画展へのご来館、講座、教室等へのご参加、調査へのご協力、誠にありがとうございました。

令和7年度は戦後80年の節目となり、関連企画展を2本開催しました。また、平成19年度から始まり、毎年恒例の地域との共同企画展「ぎのわんの字（あざ）展」も2巡目に入りました。今後の字展を楽しみにしててください。7年度は、この他にも普天間の山田真山氏のアトリエ跡に残る平和祈念像原型の曳家（ひきや）工事の撮影委託など、先を見越した資料収集も行ってきました。

おかげ様で利用者も昨年度を上回り、34,597名（令和8年2月28日現在）となりました。

市史編集事業についても『宜野湾市史』第5巻民俗のビジュアル版の刊行にむけて、市内の祭りや人生儀礼、産業等の調査を進めており、令和8年度は、いよいよ刊行年度を迎えます。

令和8年度も、宜野湾市立博物館を宜しくお願いいたします。ぜひ、博物館にいらしてください。お待ちしております！

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

宜野湾市立博物館



ホームページ



Instagram

- 入館料：無料
- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日：毎週火曜日、祝日、年末年始（文化の日、慰霊の日は開館）

